Press Release

ASBJ FASF 企業会計基準委員会
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル20階
TEL. 03-5510-2737 FAX. 03-5510-2717
URL http://www.asb.or.jp/

2006 年 3 月 2 日

会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第三回会合開催

企業会計基準委員会
国際会計基準審議会

3 月 1 日及び 2 日、企業会計基準委員会(ASBJ)と国際会計基準審議会(IASB)は、会計基準のコンバージェンスに向けた共同プロジェクトの第三回会合を東京で開催しました。この会合には、ASBJ から斎藤委員長をはじめとした 4 名の委員及びスタッフ、IASB から Tweedie 議長をはじめとした 4 名のボードメンバー及びスタッフが参加しました。

（現在までの検討状況）

まず、第一フェーズの検討テーマ 6 項目(棚卸資産の評価基準、セグメント情報、関連当事者開示、在外子会社の会計方針の統一、投資不動産、新株発行費)についてのコンバージェンスに向けたそれぞれの取組み状況を確認しました。そして、検討が順調に進んでいることから、今回、以下の 3 項目を検討テーマに追加することで合意しました。

- 資産除去債務
- 工事契約
- 金融商品の公正価値開示

（共同プロジェクトの今後の進め方：新たなプラン）

また、コンバージェンスの加速化を図るため、共同プロジェクトの今後の進め方について検討しました。その結果、ASBJ からの提案に基づいて、着手しやすいものから逐次テーマとして取り上げていく方式（「フェーズド・アプローチ」）から、差異のあるすべての会計基準について広く今後の取組みを明示する方式（「全体像アプローチ」）に移行することで合意しました。

この新たなプランでは、会計基準間の主要な差異のうち、短期的に解消可能なものを「短期プロジェクト」、それ以外を「長期プロジェクト」に分類しています。短期プロジェクトの項目は、当面、2008 年までに解決するか、少なくともその方向性を決めようとするものであり、現在取り組んでいる 9 項目がその中に含まれます。一方、長期プロジェクトの項目は、業績報告、収益認識、遡及修正、連結の範囲(SPE を含む)、無形資産（研究開発費を含む）など、解決に時間を要するものであり、ASBJ および IASB はそれぞれのボードでの審議や調査研究をある程度行った上で、コンバージェンスに向けた議論を本格的に行なっていきます。

新たなプランでは、会計基準間の差異や短期・長期それぞれのプロジェクトの検討状況

ASBJ FASF 企業会計基準委員会
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル20階
TEL. 03-5510-2737 FAX. 03-5510-2717
URL http://www.asb.or.jp/

を定期的にレビューすることによって、コンバージェンスに向けた取組みの全体像が明らかになり、継続的なプロセスであることがより明確になると考えられます。

次回は、今年 9 月にロンドンで開催する予定です。

斎藤静樹　企業会計基準委員会委員長は、次のとおり述べています。

> これまでに培った成果と相互の信頼に基づいて、われわれはプロジェクトの全体像を明確にしながら、さらにコンバージェンスを加速する新しいプランに合意しました。それに加えて ASBJ では、非公式の討議資料である概念フレームワークをひとまず完成させる作業を進め、今後の協議の進捗に役立たせる予定です。これらはコンバージェンスに向けた共同プロジェクトに新しい局面をもたらし、共通する目標をより早期に達成させると確信します。IASB と FASB との間で今後開発される新しい基準にも、積極的に貢献していく所存です。

David Tweedie 国際会計基準審議会議長は、次のとおり述べています。

> 高品質でグローバルな会計基準を持つという理想は、長年、広く受け入れられてきました。しかし、現在、世界は単一の会計基準へとコンバージェンスを行うことを現実のものとする方向へと急速に動いています。従って、IASB はコンバージェンスを加速化させるという ASBJ の提案を心から歓迎します。国際会計基準（IFRSs）と日本基準との差異を早く取り除ければ取り除けるほど、財務報告の多くの重要論点に関する新基準の開発の検討に、我々の合同会議は貢献できるのです。IASB はこれらの分野で今後数年間でアメリカの会計基準設定主体である財務会計基準審議会（FASB）と共同して会計基準を開発していく予定です。ASBJ が重要論点についての検討により早い段階で関与できればできるほど、最終基準への ASBJ の影響がより大きなものとなるでしょう。